水の源

MIZUNOMINAMOTO

2015.6
29

巻頭インタビュー　水源の里へ思いを馳せる

自然に抱かれる暮らしは私の音楽の源

歌手　南 こうせつさん

ウォークルポ

森に忠誠を誓う現代の志士 みやがわ森選組

三重県大台町

250万円で“SL復活” 「地方創生号」出発進行

鳥取県若桜町

水源の里ノート

年6回の活動が物語る、充実の棚田オーナー制度

福島県柳津町

水源の里のうまいもん

芋のコンフィチュール　いも代官

島根県大田市

北海道遺産 天塩川（美深町）
「天塩川カヌーツーリング大会
ダウン・ザ・テッシ - オ - ペッ 2015」
開催日：7 月 19 日～20 日
会場：北海道中川町～天塩町
（撮影　半澤伸夫）

巻頭インタビュー
水源の里へ思いを馳せる

聞き手：『水の源』編集長　町井且昌

自然に抱かれる暮らしは私の音楽の源

歌手
南 こうせつさん

――大分県のご出身で、今もお住まいだとか。

大分市（旧大分郡竹中村）の出身で、今は大分空港に近い国東（くにさき）半島に住んでいます。

――子ども時代のことはよく覚えておられますか。

はっきりと覚えていますね。私の生家は一級河川・大野川の中流域にあるんです。そこで自分の人生のベーシックな面が作られたような気がしています。高校を卒業するまでそこで暮らしました。小さいころは山を駆け、川で泳いで、魚釣りをして、という暮らし。本当に自然に抱かれていました。そのころはまだ食べ物も、着る物も貧しかったですね。水道もなく、井戸水でした。冷蔵庫のない時代でしたから、夏になるとスイカやトマト、キュウリを冷やして食べていました。ゴハンも薪で炊く。おこげのところがおいしくてね。兄弟4人で、塩を振って食べたのをよく覚えています。すべてが自然と一体になった生活でした。

大分の自宅近くにある菜園で

――大分を離れられてからは、どうでしたか。

東京へ出てからは、自然とは無縁の生活になりましたね。深夜放送のディスク・ジョッキーをしたり、「神田川」が大ヒットしてコンサートをやるようになったりしてからは特に。大分の田舎にいたころ、東京はまさに音楽の金字塔に思えました。今の子どもたちがニューヨークやパリをイメージするより、もっと大きな存在だった。まさに夢の都です。だから自然から遠ざかっても違和感を覚えないどころか、豊かな音の世界に浸って酔いしれていたような状況でしたね。

子どもが生まれ、生活に落ち着きができてきたころに「あれ？　何か大事なものが足りないなあ」って。それが自然でした。20代の終わりに富士山の近くに移り住みました。標高1,200mくらいのところで、寒くてねえ。冬は零下20度くらいまで下がるし、春の訪れも遅く、桜の花が咲くのが5月の連休頃。九州も東京も3月末には咲くでしょ。もっと長い期間、緑に接していたいと思って、あちこち探して、国東半島に落ち着いたというわけです。

Profile 南 こうせつさん

1949年、大分県大分市(旧:大分郡竹中村)生まれ。65歳。1970年からバンド「かぐや姫」で活躍。1975年に解散後、歌手やラジオのパーソナリティとしてソロ活動を開始。現在もライブやラジオなど、精力的に活動を続けている。1992年より毎年4月29日（みどりの日）、日比谷野外音楽堂にて、音楽を通して減少しつつある都会の緑の大切さを伝える、自然とのふれ合いコンサート「GREEN PARADISE」を開催している。

子ども時代の思い出を語る南こうせつさん

――「田園回帰」を希望する人も増えていますが。

本当に自然が大好きだという人は別にして、大変ですよ。百貨店や大型のマーケットなんてもちろんないし、日常の買い物だって大変だ。そんなこと、来てから愚痴を言われても困りますよ。それよりも、朝起きてパッと窓を開けたときに、木々の芽が日ごとに変わっていく姿を見て感動する。そういう人でないと田舎生活を続けるのは難しいと思いますね。野菜だけを育てて経済的に自立するのは相当な苦労ですよ。農業でも漁業でも、それで食べていきながら、ゆっくり暮らすなんてできません。並大抵の覚悟じゃやれませんから。

私は田舎の人口が減るのは悪いことばかりじゃないと思うんですよ。一人当たりの緑の面積はドンドン増えていくわけでしょ。だから、本当に緑を愛し、土を愛し、自然を愛し、そういう人に来てもらいたいな。家庭菜園は薦めます。自分の家の周りの四畳半か六畳くらいの畑で、気が向いたときにキュウリやトマトを作る、花を植える。経済的に裏付けのある人にはいいんじゃないですか。

――「神田川」の大ヒットは、非常に強く印象に残っています。

私が23歳のときにヒットし、世の中に名前が知られ、今日があります。私にとっては非常に大事な歌です。エポックメーキングです。人生にはいろんなところで岐路があると思うんですが、あの歌が私の人生を決定づけたと思います。そして、自然が私のアイデンティティーの源です。春があって、夏がきて、秋になって、冬になる。順番です。朝があって、昼があって、夕方になって、また朝がくる。全て自然の循環ですよね。植物もその循環に乗って、栄養を摂り育っていく。いろんな昆虫、微生物もそうですね。それに人は寄り添わなければいけない。

自然と一緒に生きていく。日本人がもう一度自然を観察して、先人達が営々と残した生活の知恵を学び、世界に広めていく。日本が先頭に立って命の大切さ、自然の美しさを広めていけば、戦争なんて起こらないんじゃないかって思います。

――水源の里の皆さんに何かメッセージを。

自然に抱かれて、季節の風に吹かれながら、自分で作った野菜、自分で作ったお米を食べる、これ以上の豊かさはないんじゃないですか。

水源の里 Walk Repo ウォークルポ

森に忠誠を誓う現代の志士
みやがわ森選組

三重県大台町

【取材・文：白波瀬聡美】

特定非営利活動法人みやがわ森選組
代表理事／初代局長
岡本雄大（おかもと・たけひろ）さん

1965年大阪市生まれ。大阪の商社に勤めていたが、長年の田舎暮らしの夢を叶えるべく2003年大台町（旧宮川村）へ移住。移住先の決め手は「縁」と「直感」。2度目の訪問の3日後には地元の森林組合で働いていたという。その1年後、みやがわ森選組を設立。森林保全や地域の活性化を中心に幅広く活動中。

災害を機に森林保全を

みやがわ森選組は平成15年結成。大阪から大台町（旧宮川村）へ移住してきた岡本雄大さんが、有志とともに立ち上げた。現在、幹部隊士は6人。「移住者仲間との忘年会で、楽しみながら地域に貢献できることはないかと盛り上がったのがきっかけ（笑）。ほんで、当時流行っていたＮＨＫ大河ドラマの「新選組！」をもじってグループ名に。“選び抜かれた森を創り上げる仲間たち”理由は後付けみたいなもんやけど、なかなかカッコええやろ？」開口一番、関西人らしい自然体で記者の緊張を解いてくれた森選組・岡本局長。まるで、軽いノリで始めたかのように語るが、森林保全や地域の活性化を中心とする活動は10年を超えた。

結成初期は地域の植樹イベントなどで木のＰＲをしていたが、翌年その活動を一変する事態が起こる。平成16年9月、宮川村を襲った未曽有の集中豪雨。土石流、地すべり、がけ崩れで、死者6人、行方不明者1人……小さな村に深い悲しみと絶望をもたらす甚大な被害だった。

大台町はこんなまち

面積362㎢、人口9,954人。北は松阪市、西は奈良県川上村・上北山村に接し、日本三大渓谷の一つ「大杉渓谷」が境界線。町の90%以上を森林が占め、大台ヶ原を源とする一級河川「宮川」に沿って東西に細長く広がる。町の基幹産業は、西部が林業、東部がお茶。近畿百名山に選ばれている「古ヶ丸山」や迷岳・総門山などには多くの登山者が訪れるほか、日本の滝100選「七ツ釜滝」を始め六十尋滝・滝頭不動滝など多くの名瀑を有する、自然豊かなまち。

「崩れた森を復活させて、立ち上がらんと！」山を強くすることが、防災の一手となり、健全な生態系をつくり出す。肥沃な山は良水を川へ送り、海へと注ぐ。山間地に住む人間の責任として、下流に暮らす人々や生き物たちのためにも「豊かな山村」を取り戻したい。その一心が森選組の原動力となり、災害跡地に植樹した木は累計8,500本にのぼる。

林業体験は“ガチ”限定

一日林業体験、一日農業体験、こういったグリーンツーリズムは、正直、どこの田舎に行ってもよく耳にする。しかし、森選組の活動はそういった類のイベントとは一線を画す。「うちでは“万人向けのお楽しみ体験”はやりません。森林に興味ないもんの世話は面倒やし、金にならないっしょ。ボランティアじゃ続けられへんからね」。岡本さんはそう言ってはばからない。

森選組の「林業のススメ」は今風に言うと「ガチ」。本気で林業への就業を目指す人や、自己所有の山林整備を行おうという人のみを対象に、座学と実技で林業を“基礎のキ”から学ぶ本格講座なのだ。参加者には、申し込み時に林業への思いを作文してもらうのだという。「プログラムは1泊2日。受講者はそれぞれ目的意識を持って参加してくる。そやから、僕たちも本気で向き合う。自分たちの持てる知識や技術、そして林業従事者として現場の生の声を真剣に伝えることで、林業の魅力と厳しさを知ってもらって、林業への“就業を促す”または“考え直す”機会を作ることが目的やから」。岡本さんの言葉から、常に危険が伴う林業現場は半端な気持ちでやれるほど甘くないという思いがひしひしと伝わる。

このような森選組の本格林業講座が、イオン株式会社の目に留まり、昨年からは三重県も加えた3者共同で、「森つなぎプロジェクト」がスタート。林業のススメが評価され、言わばスポンサーがついた形となった。半年の期間をかけて行われた昨年度のプロジェクトには、17人が参加。うち5人が修了後に林業関係への就業を決めたという。

座学では、森と日本人の関わりや世界の森林の現状、これからの林業のあり方など、森林を多面的に捉えるセミナーを実施

上／まずは、平地でチェンソーの扱い方の基礎を学ぶ
右／山に入っての伐倒演習は、プロ指導のもと、細心の注意を払って行われる

学生対象の農業体験

森選組の活動のもうひとつの柱が農業インターンシップ。大学生を対象とした農業体験プログラムで、森選組が兵庫県の甲南大学に企画提案したことからスタートし、今年で６年目を迎える。学生たちはチームを組んで２泊３日の自炊生活を行いながら、半年以上にわたり耕起作業→田植→除草→収穫→脱穀→収穫祭→販売計画→販売（実績報告）のすべてを実践する。大学側にとっては農業＋経営学の実習となり、地域にとっては耕作放棄地の復活＋維持に繋がる win win なプロジェクトだ。

「農業インターンシップは農家を育てようと思ってやってるわけやない。若いうちに自然を体感して、育てる苦労と喜びを知り、そこから見える日本の農村の現状を考える機会を作ってやりたい。五感を働かせ、感性を磨いてほしい」。自分たちが汗水垂らして育てた米がいくらで売れるのか。労働の対価を知ることで、食の大切さのみならず、社会の仕組みもわかる。岡本さんを取材に訪れた日は、兵庫県立大学のインターンシップ２日目だった。「こらぁ！　ロータリーがおりてねぇぞ〜。気いつけんかい !!」トラクターに乗る学生に容赦なく激を飛ばす岡本さんの眼差しは、父親のように厳しくもあたたかい。

6 年目を迎えた農業インターンシップ。2015 年度は、兵庫県の「甲南大学マネジメント創造学部」の学生 10 人と、「兵庫県立大学経済学部」の学生 10 人の合計 20 人で実施される

田舎で暮らす覚悟

最近では、田舎暮らしに憧れる移住希望者の相談に乗ることも多いという岡本さん。相談者にはまず、田舎への移住が本意なのかどうか問いかけるという。「現実逃避やないか？　社会の風潮に流されてないか？　って必ず聞く。だって、生活するのに本当に楽なのは絶対都会なんやから。そやなかったら、田舎は過疎化せえへんやろ。田舎は不便やし、何をするにもとにかく手間がかかる。その手間を楽しいと思えなきゃ暮らせへんからね」。引き返すのも勇気。田舎で暮らすなら覚悟を持て。自らの経験も踏まえた上で、相談者にそう語りかける。

休耕田を耕し、野菜の植え付けを行う。初めて農作業を経験する学生も多い

取材日（4/18）に実習に来ていた兵庫県立大学の皆さん

移住者に補助やサービスを付与する各地の定住化施策にも否定的だ。「手厚い補助をするから来てください、なんて姿勢はどうかと思う。そんなん目当てで来てもうても続かへんって。だいたいＩターンやＵターンって言葉も好きやない。“気に入った場所への単なる引っ越し”やのに、なんでわざわざそんな言い方すんの？　田舎から都会に出て行ったもんにはそんな呼び名ないやん。僕が大好きな田舎を区別するなよ！　って言いたい」。田舎を、大台町を、心から愛する岡本さんだからこその言葉。田舎の不便さをセールスポイントととらえ、「生み出す喜び」を伝える。まず自分たちが田舎暮らしを楽しんで、次は「一緒に楽しまない？」という仕掛けを行う、それが森選組の「田舎誘致スタイル」なのだ。

「なにもなくても、ここが好きやから、ここで暮らしたいというやつには、周りが自然とサポートしてくれる。田舎ってそんなとこやで」。

かの幕末の「新選組」は、すこぶる腕の立つ町の浪人を集めた「警備のプロ集団」だったという。三重県の山奥で出会った現代の「森選組」は、森に忠誠を誓う「田舎暮らしを楽しむプロ集団」だった。

米作りは、トラクターに乗って田んぼを起こすところから。田植までにも多くの作業がある

豊かな自然に囲まれたみやがわ森選組の活動フィールド

大台茶

お茶の生産量が全国３位の三重県。三重全域の「伊勢茶」の中でも、大台町のお茶は「大台茶」と呼ばれ、毎年各種茶品評会で上位入賞を果たす。昭和 50 年には「皇室献上茶」の栄誉にも輝いた名品で、葉肉が厚く三煎目でもコクと香りを失わないのが特徴だ。

大台スイーツプロジェクト

茶葉の消費拡大と地域活性化を目的に、スイーツを通じて特産品「大台茶」をＰＲ。町内の菓子店やお茶農家、主婦グループなど７団体が参加し開発した様々な「大台茶スイーツ」が人気を呼んでいる。

大台茶、大台スイーツについてのお問い合わせは「道の駅 奥伊勢おおだい」まで。

道の駅　奥伊勢おおだい

大台茶や大台スイーツを始め、地元産の新鮮な食材や加工品、住民手作りの木工品など、奥伊勢ならではの特産品が揃う。郷土料理が味わえる「まごころ食堂」も好評で、観光客にもおすすめの立ち寄りスポット。

所 三重県多気郡大台町佐原 663-1
Tel ＆Fax 0598-84-1010
営 8：00 〜 18：00

水源の里 Walk Repo ウォークルポ

250万円で“SL復活”「地方創生号」出発進行

元IT企業ビジネスマン、若桜鉄道山田和昭社長の戦略

鳥取県 若桜町

【取材・文：荒牧公哉】

1万3,468人を集めた「SL走行社会実験」。C12型蒸気機関車に多くの人からカメラ、スマホが向けられた（八東駅）

上／客車には乗客の代わりにカカシが乗せられた
下／「地方創生号」のヘッドマークをお披露目する山田和昭社長（左）と、石破茂地方創生担当大臣

1万3,468人が集結

C12型蒸気機関車(SL)が、過疎の町に自信を運んできた。鳥取県の東南端・若桜町に、汽笛がこだまする。サクラの咲く4月11日、前代未聞の「SL走行社会実験」がスタートした。SLのこの日の愛称は「地方創生号」。ヘッドマークのお披露目は、実験の仕掛け人・若桜鉄道の山田和昭社長と、鉄道ファンを自称する鳥取選出の石破茂地方創生担当大臣が行った。

SL復活で地域活性化をと願う自治体や鉄道会社、有志の会などは、全国に数多くある。しかし、ことは容易ではない。営業路線上でお客さんを乗せた客車を引いて走るためには、安全確認を受けた末に得られる「車籍」が必要だ。莫大な費用がかかる。公園などに静態保存されているSLを再び動かそうとしたら、軽く5億円はかかる、といわれている。

ところが、である。若桜鉄道の実験の当初予算は、何と250万円ポッキリ。主役のSLは、兵庫県多可町で静態保存されていたものを2007年に譲り受け、社員がわずか3か月あまりでお色直ししたものだ。石炭を焚いて作った蒸気ではなく、空気圧で動輪をゆっくり動かして移動できる状態で、若桜駅構内の体験乗車に使われていた。

実験は、「鉄道営業を停止し、線路を閉鎖して、客を乗せず、SLを機械扱いで動かす」という方法で成立した。運賃収入を捨て、SLを見に来てもらえればいい……およそ鉄道会社の発想とは思えない裏技である。前身の国鉄・若桜線時代以来、45年ぶりに本線上を本物のSLが動いたことには違いないが、動力は連結したディーゼル機関車。客車には乗客の代わりにカカシが並べられた。若桜駅から八東駅（八頭町）間の約9.4kmを時速約10km程度で往復させる……。

そんな“疑似走行”にもかかわらず、実験には1万3,468人が集まった（沿線サポート委員会調べ）。各駅のホームには人が居並び、スマートフォンやカメラを向けた。全国紙、テレビニュースで報道されただけではなく、集まった鉄道ファンや家族連れなどが、フェイスブックやライン、ツイッターなどのSNSを活用し、全国に“SL復活”の話題を伝えた。「写真を撮りたい“撮り鉄”などの人々には、石炭を焚いて動いているかどうかは関係ないはず」という山田社長の読みは正しかった。

若桜町はこんなまち

鳥取県東南端に位置する、面積199㎢、人口3,580人の観光の町。古来、山陽、山陰地方を結ぶ交通の要衝で、若桜鉄道、兵庫県姫路市に至る国道29号（若桜街道）が走る若桜谷とその周辺は宿場町として栄えた。兵庫県境の氷ノ山や戸倉峠一帯は豪雪地として知られ、スキー場も多い。旧若桜藩の陣屋町だった若桜駅周辺には、積雪に対応して道路にひさしを延ばす「仮屋」作りの日本建築も残る。不動院岩屋堂、若桜鬼ケ城跡などの名所・旧跡も多い。

雪に覆われた冬の若桜鉄道・若桜駅。駅舎やホームも登録有形文化財だ

若桜鉄道

1987年に鳥取県東部の旧国鉄若桜線を継承した第3セクターの鉄道会社。営業路線は若桜線の若桜駅（若桜町）～郡家（こおげ）駅（八頭町）間の19.2km。全線が単線で非電化。鳥取駅からの直通列車もある。若桜駅構内では、C12型蒸気機関車、DD16型ディーゼル機関車の体験運転（4月～11月の第3土曜日、年齢制限あり、要予約。HPアドレス http://www.infosakyu.ne.jp/wakatetu/index.html）や、展示運転が不定期に開催されている。毎年8月上旬の「隼（はやぶさ）駅まつり」に、駅と同名のバイク「スズキ GSX1300R ハヤブサ」のライダー数百人が集結する。

社長自らコスプレ PR

計画発表時、山田社長は「1万人は来る」とぶち上げた。18 人の若桜鉄道社員の先頭に立って全国を飛び回り、鉄道ファンが集うイベントで PR。主催の若桜鉄道に加え、沿線の官民 28 団体でつくるサポート委員会（会長は八頭町商工会長の三浅保則氏）、地元の若桜町、お隣の八頭町、鳥取県、鳥取県警の協力で、一大イベントが実現した。経済効果のデータ収集には、地元銀行の調査員の協力を得た。

山田社長は、地元の人々に決意文を示した。4 項目の鉄道を使った地域活性化ビジョンが記されていた。

山田和昭社長は駅員の制服姿で大阪市内の書店に登場、SL 復活を PR する

山田和昭（やまだ・かずあき）さん

1963 年生まれ。東京都出身。早稲田大学理工学部工業経営学科卒、大学では鉄道研究会に所属。IT 業界 (CSK、Lotus、COGNOS、SAS) での営業、マーケティング業務を経て、2012 年から秋田県の由利高原鉄道で IT アドバイザーやマーケティングを担当し、業績改善に貢献。2014 年 9 月に鳥取県の旧国鉄若桜線を引き継いだ第 3 セクター・若桜鉄道の公募社長に就任した。鉄道模型コレクター。

1. 自信をつける

この地の魅力を県外の人や、マスコミや文人にも語らせる。

2. 日本一・世界一を目指す

世界一を目指せば、内輪争いをしている場合ではなくなる。

3. 話し合う・語り合う、集う場を作る

駅を交流の場にする。飲み屋、独居老人が通えるワンコイン食堂を設ける。

4. 公共交通網形成計画

行政の縦割りに鉄道で横串を刺す。

山田社長は実験終了後、若桜町内で行われた講演会の演壇に立って、4 項目を柱に据えた地域活性化戦略を、地元の人々に語りかけ、奮起を促した。SL 復活の余韻に浸る間もない。八東駅で行われた記者会見では「地元にどれだけの経済効果が発生したか、収集した沿線の人数などのデータを公立鳥取環境大学で分析していただいて、検証結果を 7 月には公表したい。結果を見て若桜鉄道と地域再生に生かす方法を探りたい」と真剣な面持ちで語った。

2014 年 9 月、公募で若桜鉄道の社長に就任した山田社長は、根っからの鉄道ファン。外資系 IT 企業のビジネスマンだった。「鉄道を再生しようと思って若桜町に来てみたら、人口減少で地域が消滅しかかっている。これはまず鉄道で地域を活性化させる方法を考えないと、どうしようもないと感じました」と就任当初を振り返る。それから約半年、複数の自治体にまたがる鉄道ならではの強みを生かす活性化のアイデアを、練りに練った。

放置施設も観光資源だ

若桜町には、豊富な観光資源がある。標高 1,510m の氷ノ山（ひょうのせん）は、鳥取県では大山（だいせん）（1,729m）に次ぐ高峰、兵庫県では最高峰にあたる。冬はスキー客、夏はハイカーが集う。若桜駅からバス便もある。名水の地でもあり、夏には山腹の棚田が緑に染まる。スキー場に近い名水スポットの「氷山命水」を口に含む。柔らかい舌触り。氷ノ山の雪解け水をたたえる八東川は豊富な水量の清流で、アユ、アマゴ、イワナ釣りの名所でもある。支流沿いには、国の重要文化財、不動院岩屋堂がたたずむ。本堂の不動明王は弘法大師 33 歳の作といわれ、「日本三大不動明王」のひとつに数えられる。

左／ 4 月になっても雪を残す氷ノ山スキー場
右／氷ノ山の名水「氷山命水」。スキー場に近い名所のひとつ
下／不動院岩屋堂は、室町時代の修験道建築様式を持つ国の重要文化財

野生鳥獣を供するジビエ料理も名物のひとつ。若桜町のハンターが仕留めたシカ肉の特製弁当（1,000 円）をいただいた。シカのステーキと竜田揚げにご飯とお新香というシンプルな組み合わせ。弁当を用意してくれたのは、若桜駅に近い洋食店「夢豆庵（むとうあん）」（HP アドレス http://tottori-ichi.jp/mutouan/）。同店やその向いの道の駅「若桜桜ん坊」（http://michinoeki-wakasa.com/）では、シカ肉料理もいただける。

若桜鉄道には古い木造駅舎、SL 用人力転車台、給水塔など、レトロな施設が多く残された。2008 年にそれら 23 の施設が登録有形文化財に指定されている。「お金がないので新しくしなかっただけなのですが、鉄道ファンにとっては宝物のような遺構です。これを生かさない手はない」（山田社長）。地域の魅力をいかに発信するか……山田社長は、人々をさらにあっと言わせるイベントも計画中という。実験は 1 日限りの夢ではない。「地方創生号」は、日本一、世界一を目指して走り続ける。

シカ肉を使った「SL 走行『特製弁当』」（夢豆庵、1,000 円）

左／ SL 用の給水塔（若桜駅）
右／ SL 用の手動転車台（若桜駅）

水源の里ノート
いきいき活動集落

福島県柳津町（やないづまち） 久保田地区

年６回の活動が物語る、充実の棚田オーナー制度

三十三観音を巡り、下山する参拝者ら

十字架を持つ「マリア観音像」

信仰心の篤い、美しい農村

久保田地区は、町の中心部から南東に約13km、傾斜地の多い山間部に位置する自然豊かな地域だ。棚田が多く現存しており、山から涌き出る清水で米を育てている。美しい農村景観は、地区の人々によって守られ、引き継がれてきた。

「観音山」と呼ばれる小高い丘には、江戸時代に地区の人が願いを込めて一戸で一体を刻んだと伝わる、33体の観音像が祀られている。7番目に位置する十字架を手にした観音像は「マリア観音」と呼ばれ、この地にキリスト教の信仰があったことをうかがわせる。「観音像が置かれた234mの参道を妊婦が歩き、観音像一体一体に手を合わせて安産を願った」という言い伝えもあり、安産祈願の観音様としても知られている。毎年4月29日に開催される「久保田三十三観音まつり」には、県内外から多くの参拝者が訪れる。

棚田と観音様がつないだ縁

久保田地区では平成20年度、地域住民による「グリーン・ツーリズム推進協議会」が発足した。きっかけは、地区を訪れた地元短期大学教授が、大切に守られている観音様や美しい景観に感動し、村づくりをアドバイスをしたこと。以来、農村集落の特性である農林業や自然、文化等を生かした棚田オーナー制度により、都市住民との交流を図りながら地域の活性化と産業の振興に向けた活動を行っている。

メインの稲作体験は、種まき、田植え、稲刈り、さで掛け（稲木干し）、脱穀等。参加者と一緒に昔ながらの手作業で行っている。稲作のほかにも、山菜採り、味噌作りなど農村集落ならではの体験メニューを提供。これらは、地区を気に入り、もっと遊びに来たいという棚田オーナーの要望を受けて追加したもの。年6回もの活動に、ほとんどのオーナーが毎回参加する。秋に行う収穫祭では、自分たちが育てたお米の受け取りや、餅つき、そば打ちで秋の味覚を楽しむことができる。

9割がリピーター

活動は今年度で7年目。参加20組のほとんどが開始当初からのリピーターだ。募集にあたり、関東圏で読まれる新聞に広報したことから、多くは埼玉や千葉から車で2～3時間をかけて訪れる。その年最初のプログラムである春の種まきでは、半年ぶりに訪れるオーナーを「お帰りなさい」と久保田のとうちゃん・かあちゃんが第二のふるさとととして歓迎する。

地区住民は、苗の育成管理や体験指導、受入準備などのさまざまな役割を分担して取り組んでいる。婦人会では、イベント時に地元食材を使用した食事を出したいと、あらためて郷土料理を研究する機会につながったという。グリーン・ツーリズムの受入れにより、オーナーとの交流が集落に活気を取り戻すとともに、地域内のコミュニケーション向上にも繋がっている。

手作業の稲刈り

稲の種まきから、オーナーが作業に参加する

味噌作りなど、稲作以外の体験メニューも人気

交流会では手作りの郷土料理がふるまわれる

柳津町はこんなまち

人口3,703人、面積175.82km²。福島県・奥会津の玄関口に位置し、日本三所之一「福満虚空蔵菩薩圓藏寺（ふくまんこくうぞうぼさつえんぞうじ）」を頂く門前町。町には只見川がゆったりと流れ、寺から眺めると、伝統と自然が融合したとても美しい景色を望むことができる。

久保田地区の基礎データ

世帯数：40世帯　人口：86人　高齢化率：63.95％

「久保田観音たっしゃ村棚田オーナー制度」

都市住民や地域の非農家が、定められた棚田で自ら継続的に耕作を行い、収穫等を得る制度。交流人口を増やし地域の活性化につなげようと、平成20年度より取り組みを始めた。久保田地区では会費（30,000円）を徴収し、収穫物（コシヒカリ玄米30kg）をオーナーに手渡す。

水源の里の うまいもん お取り寄せ

万人に愛されるやさしい甘さ

芋のコンフィチュール いも代官

600円（150g）

島根県大田市（おおだ）

面積 435.7km²、人口 36,984 人。2007 年、世界文化遺産に登録された石見銀山遺跡や全国でも有数の湧出量を誇る三瓶温泉、石見神楽など、先人から受け継いだ歴史・文化が息づく町。月刊誌『田舎暮らしの本』（宝島社，2015 年 2 月号）でまとめられた「日本“住みたい田舎”ベストランキング」で、総合一位を獲得した。

さんべ食品工業株式会社
所 島根県大田市大田町大田イ 403-5
Tel 0854-82-0863
営 9:00 ～ 17:00
休 土・日・祝日
http://sanbe-sweet.com/

海にも里にも、良質な食材が豊富にある大田市。地元食材を使い一定の基準を満たす製品には、市が「おおだブランド」として認証し、特色ある食文化の知名度アップと、流通拡大に取り組んでいます。

おおだブランド認証商品には、「いも代官」の名がつくサツマイモの関連商品が多数。「江戸時代中期、石見国（現在の島根県西部域）を統治する、大森代官所に赴任した井戸平左衛門が、サツマイモ栽培を導入し、多くの領民を飢饉から救った」という伝記にちなんだネーミングだそうです。

今回は、初めて食べるのに懐かしさを感じる、やさしい甘さの「いも代官 コンフィチュール」2種を紹介します。おおだブランド認証商品の黄色いコンフィチュール（ジャム）は、地元で採れた金時と紅あずまを使用。パンに塗ってから少し焼くと、さらに風味豊かに。甘く香ばしい、ほっこりする味わいです。隣町の美郷町産ムラサキイモを使用した紫色のコンフィチュールは、レモンの酸味と相まって山葡萄を思わせる濃厚な味。ヨーグルトとも好相性です。

「子どもが喜んで、安心して食べられる商品を作りたい」と、添加物は不使用。国産原料にこだわって作られているので、お子さんのいる家庭への手土産にもお勧め。朝食におやつに、誰もが笑顔になる美味しさです。

教えて！ おすすめみやげ

定番 おうちで SANBE BURGER がつくれちゃうセット

（パテ・バンズ各 1 枚）500 円

炭火焼きのパテと三瓶山をかたどった特製バンズのセット。県産牛・豚肉を100% 使用し自社でミンチにする、うま味の強いパテに合わせるのは、小麦が香るしっかりめのバンズ。好みの野菜を挟んでオリジナルバーガーを楽しもう。

三瓶バーガー（SANBE BURGER）
Tel 0854-86-0200
通販可
http://www.sanbe-bg.com/

NEW さば塩辛

（320g） 648 円

漁をしたその日に水揚げする「一日漁」、続けてセリにかける「晩市」が行われる漁師町の古き家庭の味を再現。鮮度抜群のマサバをぶつ切りにし、天然塩を合わせて半年間熟成させる。骨や皮のうま味も逃さずいただく、豪快な漁師メシ。

有限会社岡富商店
Tel 0854-82-8102
通販可
http://www.okatomi.jp/

イチオシ 発泡清酒「雪香」

（200ml）540 円
アルコール度数 5 度

“酒の命の源”と水にこだわる酒蔵が造る、微発泡の日本酒。淡い乳白色と米麹の甘い香りは、商品名「雪香」のイメージそのもの。シュワッとした飲みごこちと程よい酸味で、食前酒に喜ばれそう。

一宮酒造有限会社
Tel 0854-82-0057
通販可
http://www.ichinomiya-s.jp/

価格は全て税込表示です

協議会だより

インフォメーション 「地方創生首長勉強会」開催

開催日時
第 1 回　7 月 30 日（木）
第 2 回　8 月 24 日（月）
第 3 回　11 月 14 日（土）
毎回 13:00 受付、講演 13:30 ～ 16:00

会　場
東京都中央区銀座 5-15-8
時事通信ビル 7F 研修室

対　象
全国水源の里連絡協議会参画 166 自治体等の市町村長

参加費
協議会参画自治体……無料
非参画自治体……15,000 円（3 回通し）

内　容
魅力ある地域づくりに向けて、首長や有識者とともに地域振興策を練り上げる

主な講師

第 1 回
増田 寛也 さん
野村総合研究所顧問

第 2 回
石破 茂 さん
地方創生担当大臣

第 3 回
藻谷 浩介 さん
日本総合研究所調査部
主席研究員

第 1 回～ 3 回
小田切 徳美 さん
明治大学教授

主　催：全国水源の里連絡協議会

お問い合わせは、協議会事務局（綾部市役所水源の里・地域振興課）まで
TEL 0773-54-0095

読者プレゼント

いも代官コンフィチュール等詰合せ　1 名様

●アンケート
Q 1. 面白かった・関心を持った記事
Q 2. 今後取り上げてほしい内容
Q 3. 水源の里への思いや本誌に関するご意見・ご感想

●プレゼント応募方法
はがきに**アンケートの回答**と**住所、氏名、電話番号、性別**を明記の上、下記宛先『水の源 29 号』読者プレゼント係までご応募ください。
【平成 27 年 7 月 24 日（金）消印有効】
※当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
※ご応募いただいた皆様の個人情報は、賞品発送以外の目的では使用しません。

編集後記

■ インタビュー／町井
実際に田舎生活を体験されている南さんの見識に心を打たれました。「神田川」や「赤ちょうちん」に漂う人生に寄り添う優しさをその語り口の端々に感じました。

■ ウォークルポ（大台町）／白波瀬
森選組・岡本局長の印象を一言で表すと“まじめな森の遊び人”。森を、大地を、とことん愛し、とことん真面目に遊ぶ。「不便さを楽しむのが田舎の醍醐味」という言葉に、田舎の新しい価値観を感じました。

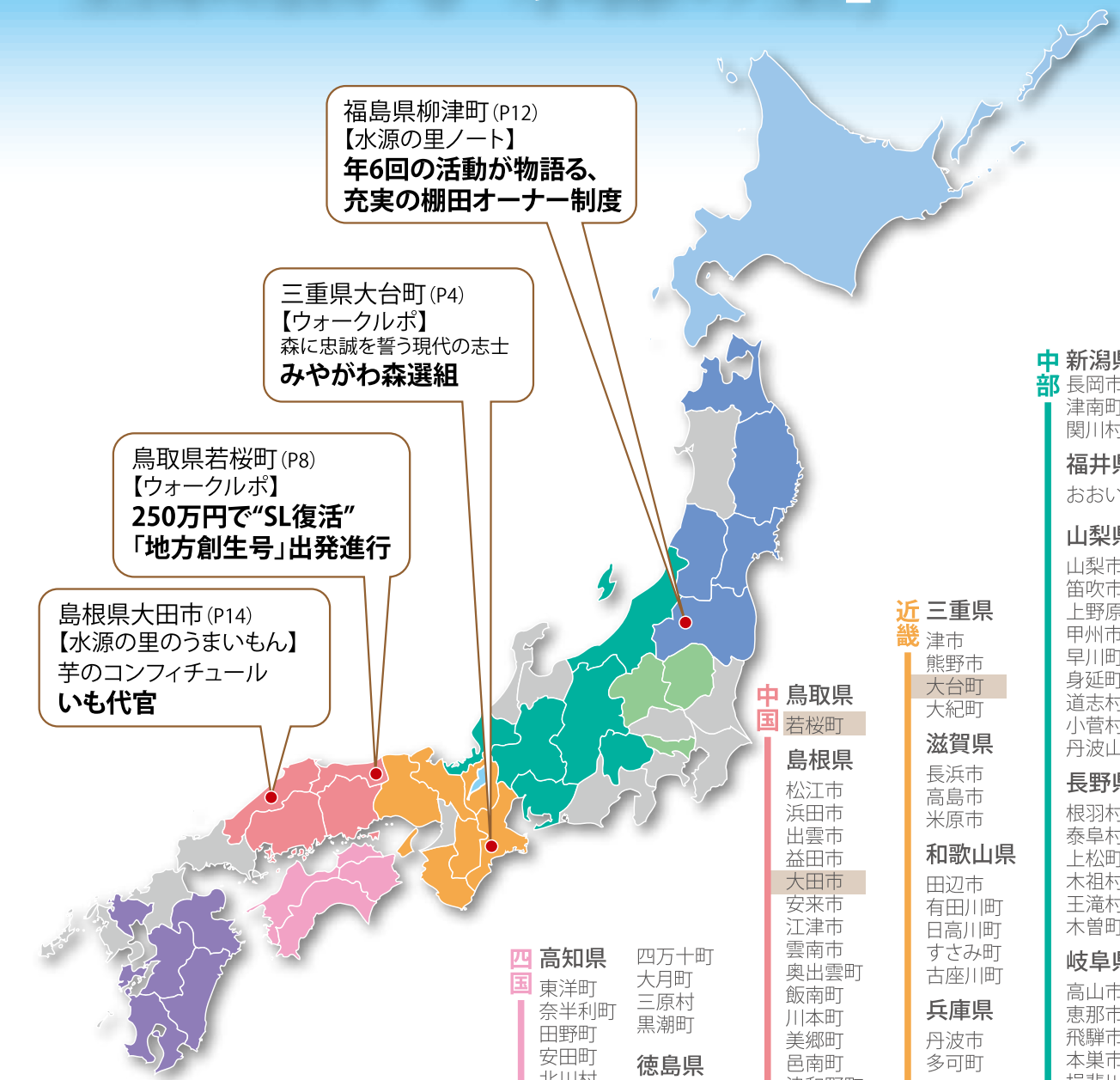
■ ウォークルポ（若桜町）／荒牧
SL を動かした若桜鉄道山田社長と知己を得たのは、都内で開かれた「美食イベント」。社長就任前から鉄道趣味のやり取りを続けており、今回は取材でお世話になりました。今後の展開も楽しみです。

本誌に関するお問い合わせ、ご連絡先は
全国水源の里連絡協議会　水の源編集委員会
綾部市役所 定住交流部 水源の里・地域振興課　〒 623-8501 京都府綾部市若竹町 8 番地の 1
TEL：0773-42-3280（代表）　FAX：0773-54-0096　E-mail：suigen@city.ayabe.lg.jp
http://www.suigennosato.com/index.htm

定期購読のお知らせ
『水の源』が年 4 回お手元に届きます。年間購読料 :1,000 円（送料込）
お申し込みは、上記の電話、ファックス、メール、HPから

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する

全国に広がる「水源の里」



福島県柳津町(P12)
【水源の里ノート】
年6回の活動が物語る、充実の棚田オーナー制度

三重県大台町(P4)
【ウォークルポ】
森に忠誠を誓う現代の志士
みやがわ森選組

鳥取県若桜町(P8)
【ウォークルポ】
250万円で“SL復活”「地方創生号」出発進行

島根県大田市(P14)
【水源の里のうまいもん】
芋のコンフィチュール
いも代官

北海道
- **北海道**: 下川町、美深町、中川町、清里町

東北
- **青森県**: 西目屋村
- **岩手県**: 遠野市、一関市、葛巻町、西和賀町
- **宮城県**: 七ヶ宿町、富谷町
- **山形県**: 小国町、飯豊町
- **福島県**: 喜多方市、相馬市、下郷町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、柳津町、金山町、昭和村、矢祭町、川内村

関東
- **栃木県**: 日光市
- **群馬県**: 上野村、南牧村、みなかみ町
- **東京都**: 檜原村、奥多摩町

中部
- **新潟県**: 長岡市、津南町、関川村
- **福井県**: おおい町
- **山梨県**: 山梨市、笛吹市、上野原市、甲州市、早川町、身延町、道志村、小菅村、丹波山村
- **長野県**: 根羽村、泰阜村、上松町、木祖村、王滝村、木曽町
- **岐阜県**: 高山市、恵那市、飛騨市、本巣市、揖斐川町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町、白川村
- **愛知県**: 新城市、設楽町、東栄町、豊根村

近畿
- **三重県**: 津市、熊野市、大台町、大紀町
- **滋賀県**: 長浜市、高島市、米原市
- **和歌山県**: 田辺市、有田川町、日高川町、すさみ町、古座川町
- **兵庫県**: 丹波市、多可町
- **奈良県**: 天川村、川上村
- **京都府**: 京都市、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、南丹市、京丹波町、与謝野町

中国
- **鳥取県**: 若桜町
- **島根県**: 松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、江津市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町
- **岡山県**: 真庭市、里庄町、鏡野町
- **広島県**: 庄原市、神石高原町

四国
- **高知県**: 東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、中土佐町、佐川町、越知町、梼原町、日高村、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町
- **徳島県**: 美馬市、佐那河内村、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町、東みよし町
- **香川県**: まんのう町
- **愛媛県**: 西予市、久万高原町

九州
- **佐賀県**: 佐賀市、多久市、嬉野市
- **大分県**: 大分市、佐伯市、臼杵市
- **熊本県**: 阿蘇市
- **宮崎県**: 延岡市、小林市、綾町、木城町、諸塚村、日之影町
- **鹿児島県**: 日置市、伊佐市

水の源　第29号
企画・発行：全国水源の里連絡協議会
発行日：平成27年6月
編　集：「水の源」編集委員会

私たちは水源の里を応援します!!

- 全国環境整備事業協同組合連合会
- 一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
- 全国森林組合連合会
- 一般社団法人 全国清涼飲料工業会
- 全国農業協同組合連合会
- 電気事業連合会
- 独立行政法人 水資源機構
- 公益社団法人 大分県薬剤師会